

# 【第2回】五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会を開催しました

## 1. 概要

### 市民力、地域力アップで、のべおか防災・減災まちづくり 「教訓に学び地域で備える～みんなでももるプロジェクト～」

五ヶ瀬川水系では、平成17年9月台風14号の水害を受けて、「みずからまもるプロジェクト」のソフト対策に取り組んできました。平成27年9月関東・東北豪雨での大規模な浸水被害を踏まえ、五ヶ瀬川流域では、氾濫発生を前提とした、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会」を再構築する取組を実施することとしています。平成28年3月25日に「第1回五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会」を開催し、延岡市、宮崎県、国が連携し減災に向けた取組目標を共有したところです。第2回協議会では、**宮崎大学名誉教授 杉尾 哲先生、宮崎大学教授 村上 啓介先生**をアドバイザーとして迎え、今後、大規模水害は必ず発生する事を前提とした住民をはじめ企業みずからが防災意識を持ち「地域ぐるみで被害の最小化」、企業等の早期の経済活動再開に向けた「速やかな社会システムの回復」を主眼に、ハード対策とソフト対策を一体的に推進する取組を確認し承認を得ました。今後「みんなでももるプロジェクト」として取り組んでいきます。

## 2. 日時・構成員

日時 : 平成28年7月29日(金) 10:00～11:00  
会場 : 延岡市役所6階 会議室607  
構成員 : 延岡市長、宮崎県総務部危機管理局長兼危機管理課長、宮崎県県土整備部河川課長、延岡土木事務所所長、宮崎地方気象台長、延岡河川国道事務所所長、  
アドバイザー : 宮崎大学名誉教授 杉尾 哲、宮崎大学教授 村上 啓介

## 3. 議事内容

- 概ね5年間で実施する取組みとして「五ヶ瀬川の減災に係る取組方針」について承認された。

## 4. 意見等

- ◎危機感を感じないと避難行動につながらないことから、避難情報の提供にあたっては表現などを工夫することが重要
- ◎情報の中身や質によって避難行動が変化するため、誰が、どのタイミングで行うかが重要
- ◎時々刻々変化する浸水状況を時系列に提供する事が大事
- ◎住民避難に繋がる情報の質は、出し手側・受け手側の防災意識の向上が大事であり、従前の啓発活動に加え学校機関での水防災教育に取り組むことも重要

